

どうなるの JOYO

城陽市の今とこれから



京都府議会議員(城陽市選出)

Vol.013 2016.01

発行:酒井つねお

京都府城陽市寺田袋尻21-3 堀井ビル2階

Tel:0774-57-1700

酒井つねお府議会NEWS



福祉

先進都市「城陽」

福祉先進都市への 取り組みは?



概要

福祉と保健、医療の分野で、確かな安心を次世代に引き継ぐための取り組み、少子高齢化の急速な進展の中で、将来にわたって市民の暮らしを支えていく仕組みと人材育成など。高齢化率が30%を超え、人口減少が進行する城陽市においても重要な政策の一つ。

現状

- 子育てサポート
 - 子育て世帯の経済的負担軽減を目的として子育て支援医療の独自事業を拡充
 - 多世代交流機能を有する地域子育て支援センター「ひなたぼっこ」を整備
- 高齢者サポート
 - 社会参加や地域貢献の場を広げるとともに、ご本人の健康増進と介護予防に役立てていただく「高齢者元気サポーター応援事業」を開始(2015.3~)
- 障がい者サポート
 - 地域における手話への理解の促進と手話の普及などを目的とする、手話言語条例の制定(京都府内初)

30

km/h

ゾーン30の 効果は?



概要

衝突時の速度が30km/hを超えると歩行者の致死率が急に上昇することから、通学路や生活道路が集中している区域の最高速度を30km/hに規制し、歩行者等の通行を最優先する施策。(30km/hの場合:致死率約10% 50km/hの場合:致死率80%以上)

現状

- 城陽市内では、久世・深谷小学校区にまたがる寺田大谷地区と青谷地域の奈島・十六地区を主とする区域に設定
- 寺田大谷地区では設置後3カ月で「速度~42.7%減、車両通行量~25.2%減」とのデータ上の効果が見られた

今後の課題

- ★ 効果継続策と周知策には検証と更なる工夫が必要である。(防犯カメラの利用等)
- ★ 市民との定期的な意見交換、啓発活動などで自転車運転者、歩行者の安全意識向上を図ることも求められる。



スポーツのまち城陽

スポーツの まちって どんなまち?



概要

現代社会におけるスポーツは、暮らしの中の楽しみや青少年の教育、そして人々の交流を促し健康を維持増進するものとして、更には生きがいとして、多くの人々に親しまれている。スポーツは幸福を追求し健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものとなっている。

現状

- 京都サンガF.C.との協力によりスポーツ振興に取り組んでいる
- 近郊のスポーツ施設を有効に活用しながら生涯スポーツ活動を推進している

チャンス!!

「スポーツのまち」といえば? 20代、30代のベスト15位内に関西の自治体はなく、40代で初めて阪神タイガースの甲子園球場がある西宮市が7位にランクインしている。(2011年調査)

今後の課題

- ★ 「スポーツのまち」としての成果目標の設定(市民のスポーツ実施率など)
- ★ スポーツ資源の再確認と効果的活用方法の検討
- ★ オリンピック前とオリンピック後のあり方の明確化
- ★ 人気スポーツの成績に頼らないスポーツ振興の仕組みづくり

今後の課題

- ★ ①子育てサポート
 - 保育人材の確保・定着に向けた取り組みの強化、子どもの貧困対策(居場所づくり、学習支援、生活支援など)
 - 教育と福祉の連携強化(学童保育の体制強化など)
 - 地元雇用の確保(ワークライフバランス)
- ★ ②高齢者サポート
 - 医療・介護・予防・生活支援・暮らしを一体的に支援する仕組みづくり
 - 認知症患者を地域で支える仕組みづくり(体制、人材)
- ★ ③障がい者サポート
 - 援助や配慮を必要としている人を周囲に知らせるための「ヘルプマーク」の普及啓発
 - 地元での生活・雇用・就労・定着支援
- ★ ④健康サポート
 - 各団体との情報共有と連携(目標の明確化と効果の見える化)
 - マイナンバー制度の活用方法と健康マイレージ制度の検討
- ★ ⑤まちづくりサポート
 - 例えば車いす利用者の視点に配慮したガードレールの高さ設定や歩道の段差整備など、福祉政策とまちづくり政策の融合